



耳あかが、しめっている人と、かわいている人がいるのはなぜ

耳あかは、耳の穴にあかがたまったもの

耳あか（耳くそ）は、耳の穴にあかがたまったものです。

耳の穴（外耳道）の出口に近い皮ふには、汗腺の一種の耳垢腺というものがあり、そこから出る耳脂という油のようなものと、外耳道の、皮ふがはがれたものや、ほこりがいっしょになって、うすい紙のようにかたまったものが、耳あかです。

耳あかがしめっている人は、この耳垢腺が多く、かわいている人は、この耳垢腺が少ないため、耳あかがしめっている人と、かわいている人がいるのです。

耳あかをそのままにしておく

耳あかは、ふつう、あごの関節の動きによって、自然におしだされるため、耳の穴をふさぐようなことはありません。しかし、耳あかがしめっている人の場合は、こびりつきやすいので、耳かきでそうじをしたほうがよいようです。

そうじをしないでおくと、人によっては、耳あかが耳の穴いっぱいにつまって、音がよく聞こえなくなることがありますし、気になって、耳の穴をきたないつまなどでひっかくと、そこらばい菌が入って、耳の病気になることもありますので、注意が必要です。

（監修・保志 宏）

